

目次

1. CSR戦略ビジョン「りくみビジョン2020」 …3ページ
2. 当組合 環境方針 ……4ページ
3. 社会貢献活動 ……5～9ページ
 - 3-① 「月刊リサイクルデザイン」の発行 ……5ページ
 - 3-② 「リサイクルデザインサポーター」制度・読者モニターの募集・
「リサイクルポート山ノ内 サタデー見学会」の実施 ……6ページ
 - 3-③ 移動リサイクル教室「出前講師」 ……6ページ
 - 3-④ 「環境絵日記」の募集 ……7ページ
 - 3-⑤ 「リサイクルデザインフォーラム」の開催 ……7～9ページ
 - 3-⑥ 「学校等アルミ缶もったいないプロジェクト」 ……9ページ
 - 3-⑦ イベントへの出展など ……9ページ
4. 回収事業、再生製品開発・販売事業 ……10～12ページ
 - 4-①「よこはま市民の回収」の取り組み ……10ページ
 - 4-②古紙回収事業（資源集団回収・オフィス共同回収） ……11ページ
 - 4-③再生製品開発・販売事業 ……12ページ
5. 資源化センター事業（受託事業） ……12ページ
6. リサイクルポート山ノ内 ……12ページ
7. その他 ……13～14ページ
 - 7-①ISO14001 認証取得 ……13ページ
 - 7-②地域貢献企業【最上位】認定 ……13ページ
 - 7-③その他の事業 ……13～14ページ



2つの円形は血管を表しています。
右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。
私たちは、産業全体の中の静脈部分を扱っていますが、
静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指
していきたいと考えます。

1. CSR戦略ビジョン「りくみビジョン2020」

私達は、社会的課題に取り組むリサイクル業界のトップランナーをめざします。CSR戦略ビジョン「りくみビジョン2020」を掲げ、「リサイクルデザインタウン」の構築に向けて、新たな社会貢献ビジネスを展開してまいります。

●「りくみビジョン2020」とは？

循環型社会に向けた社会の変革をふまえ、社会的企業としての組合・リサイクル業界が中心となり、市民や事業者、行政と連携・協力し合って循環型社会を担っていく地域社会の姿を「リサイクルデザインタウン」と名付け、将来ビジョンとして掲げます。

「リサイクルデザインタウン」の実現のためには、CSR（企業の社会的責任）を経営上の最も重要な戦略として位置付け、社会的企業・業界への脱皮が必要となります。（戦略的CSR活動）

そのためには「りくみブランド」を確立し市民に選ばれる企業・業界となること、公共サービスを提供する社会貢献ビジネスとして、循環型社会をめざす行政や市民、事業者の多様なニーズに対応できる仕組みや体制の整備を図ることを目指します。

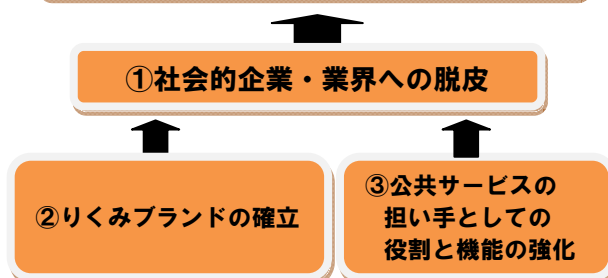
●リサイクルデザインタウンとは？

リサイクル業界は、市民や自治体からリサイクルの担い手として期待されており、社会的な使命は大きくなっており、循環型社会を支える基幹的な産業として、将来を見据えた発展をしていかなければなりません。

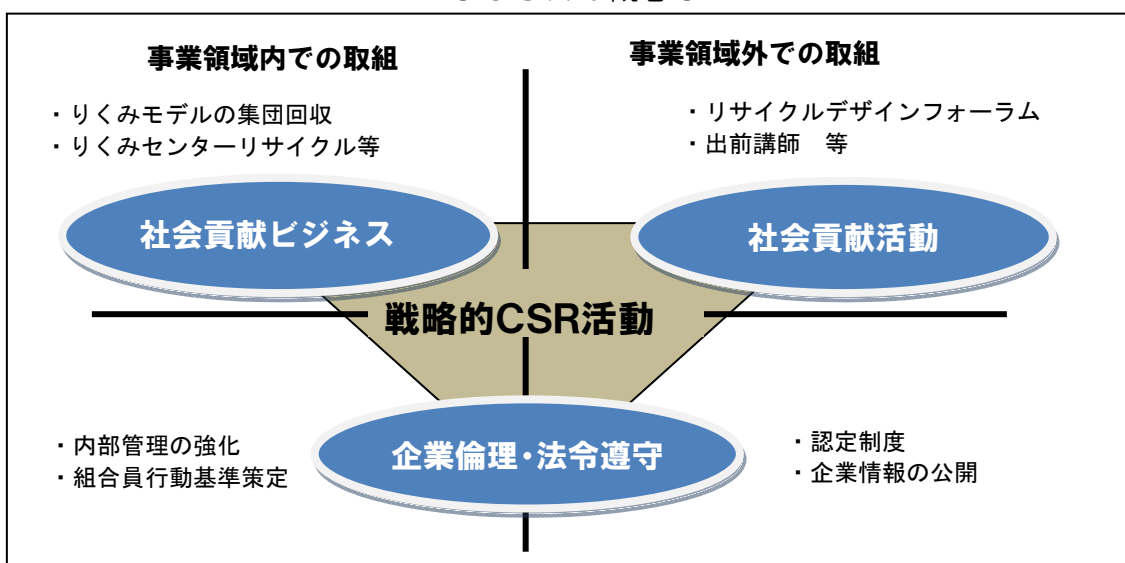
「リサイクルデザインタウン」とは、循環型社会に向けた社会の変革をふまえ、社会的企業としての組合・リサイクル業界が提案・行動し、市民や事業者、行政と連携・協力し合って循環型社会を担っていく地域社会の姿をイメージしたものです。

「りくみビジョン2020」の構成

「リサイクルデザインタウン」の構築



●CSRの概念●



2. 当組合 環境方針

平成19年3月29日 ISO14001 認証取得

基本理念

- 持続可能な循環型社会（リサイクルデザインタウン）をめざして -

日本はかつて、非常にリサイクルがうまくいっていました。言うなれば、循環型社会が確立した環境にやさしい国でした。

しかし、高度経済成長への政策転換を機に消費は美徳と謳い「大量生産・大量消費」型のライフスタイルを持て囃し、その結果として今日の「大量廃棄」という社会構造を生み出し、さまざまな環境問題を引き起こしています。これは単に大量廃棄の行き先を大量リサイクルに変えるのでは解決できません。どうすれば社会の構造を「持続可能な循環型社会（リサイクルデザインタウン）」に作り直すことができるかが、これからの社会づくりには必要なのです。

リサイクルデザインタウン（持続性のある循環型社会）をめざすためには、市民の皆さまとの協力が必要不可欠です。月刊リサイクルデザインの発行や出前講師、リサイクルデザインフォーラム（子ども環境会議&環境絵日記）などの地域に根ざした形での活動を積極的に取り組み、市民の皆さまにリサイクルの本質を理解していただき、一緒になってリサイクルデザインタウン（循環型都市よこはま）づくりを考えていきます。

リサイクル産業にも大企業がつぎつぎに参入するようになりました。私たち横浜市資源リサイクル事業協同組合は個々がリサイクルのプロです。それぞれが持てる力を最大限発揮し、一致団結して臨んでいきます。

リサイクルデザインタウン（持続可能な循環型社会）とは、人類が自然界と共生し、安心して暮らせる豊かな地球環境を次の世代へ引き継ぐまちづくりから生まれるのです。これからも、横浜市民の皆さまとリサイクルの輪を広げ、リサイクルデザインタウン（持続可能な循環型社会）を目指し、具体的な行動を起こしてまいります。

基本方針

1. リサイクルデザインタウン（循環型都市よこはま）の実現に向けて、組合員及び職員一人ひとりが環境配慮の行動を実践します。このため、全組合員及び職員が参加できる分かりやすい仕組みづくりを行うとともに、積極的な人材育成を行い、一人ひとりが環境保全の役割を果たします。
2. 関連する環境の法令、条例、規則、協定その他の同意事項を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
3. 環境への負荷低減はもとより、我々の本来業務である環境保全・創造のための取り組みを、目標を掲げて、積極的・継続的に推進します。
4. 事業活動に伴う環境への負荷を低減するため、グリーン購入、省資源・省エネルギー活動を推進します。
5. 環境保全・創造のための取り組みを増加させるために、環境方針や取り組み結果を市民に公表し、本来業務及び環境マネジメントシステムを継続して改善するように努めます。

平成21年9月15日

横浜市資源リサイクル事業協同組合
代表理事 高田 哲二

3.2 環境方針の公開方法

環境方針は、横浜市資源リサイクル事業協同組合のホームページに掲示し、市民に広報する。

3. 社会貢献活動

3-①「月刊リサイクルデザイン」の発行

市民のみなさんにお配りしている無料のリサイクル情報誌「月刊リサイクルデザイン」は、平成23年3月のNo.198の発行部数が83,200部でした。内容に関しての問い合わせや活動に対する応援等、皆様からの電話やFAX・メールなどでの様々な反響を、年間を通じて頂いております。

今年度は、より多くの方に読んで頂くために、読者の目に留まりやすく、当組合が発行している事が一目で分かるような表紙のロゴを新規に作成しました。

今年度の特集は、転入者の多い年度初めと半期に合わせて「分別の勘違い・ギモンに迫る！」を掲載したほか、「知っておきたい分け方・出し方」によって、それぞれの資源物のリサイクルについて“分別初心者”にも分かりやすい内容でお伝えする事に取り組みました。

皆さまから頂きましたご意見は、これからのリサイクルデザインの活動に、今後も反映させていきたいと思っております。ありがとうございました。



月刊リサイクルデザイン1年間の特集(平成22年度)

- No.187: 分別の勘違い・ギモンに迫る！(2010年春版)
- No.188: 徹底追跡シリーズ 第7弾「新聞のリサイクル」
- No.189: 知ってるつもりの環境用語 第4弾
- No.190: 徹底追跡シリーズ 第8弾「雑誌・その他の紙のリサイクル」
- No.191: 便利でトクする資源集団回収
- No.192: 分別の勘違い・ギモンに迫る！(2010年秋版)
- No.193: 知っておきたい分け方・出し方 1: 燃やすごみの日に出すもの
- No.194: 知っておきたい分け方・出し方 2: 缶・びん・ペットボトルと小さな金属類
- No.195: リサイクルデザインフォーラム2010「小さな行動を大きなエコの力に」
- No.196: 知ってるつもりの環境用語 第5弾
- No.197: 知っておきたい分け方・出し方 3: プラスチック製容器包装
- No.198: 知っておきたい分け方・出し方 4: 古紙・古布

3-②「リサイクルデザインサポーター」制度・読者モニターの募集・ 「リサイクルポート山ノ内 サタデー見学会」の実施

1) リサイクルデザインサポーター制度

当組合の活動をご理解・ご支援頂ける横浜市民(個人及び団体)を対象に、市民協力会員として「リサイクルデザインサポーター」を募集しています。会員には、組合催事のご案内や、情報誌「月刊リサイクルデザイン」の送付等を行っています。

●リサイクルデザインサポーター

平成22年3月登録数 574 会員数30,683名

平成23年3月登録数 575 会員数34,777名

4,094名
増加



2) 月刊リサイクルデザイン読者モニターの募集・アンケートの実施

今年度も誌面をより充実させるため、読者モニターをNo.187(平成22年4月号)で募集し、毎月アンケートを行いました。(FAX11人/Eメール19人)

- ・平均年齢 44.0歳 / 最低年齢 25歳 / 最高年齢 72歳
- ・男女比 = 2 : 28
- ・平均返信率 95% (全12回返信者22名)

3) 「リサイクルポート山ノ内 サタデー見学会」の開催

リサイクルポート山ノ内見学会や出前講師に参加するには人数が揃わないという少人数者を対象として8月に行い、分別の重要性や資源物の行方などを広報することができました。

- 日程：平成22年8月7日(土) 10:15～11:45
- 参加者：29名(大人14名 中学生7名 小学生7名 幼児1名)

3-③移動リサイクル教室「出前講師」

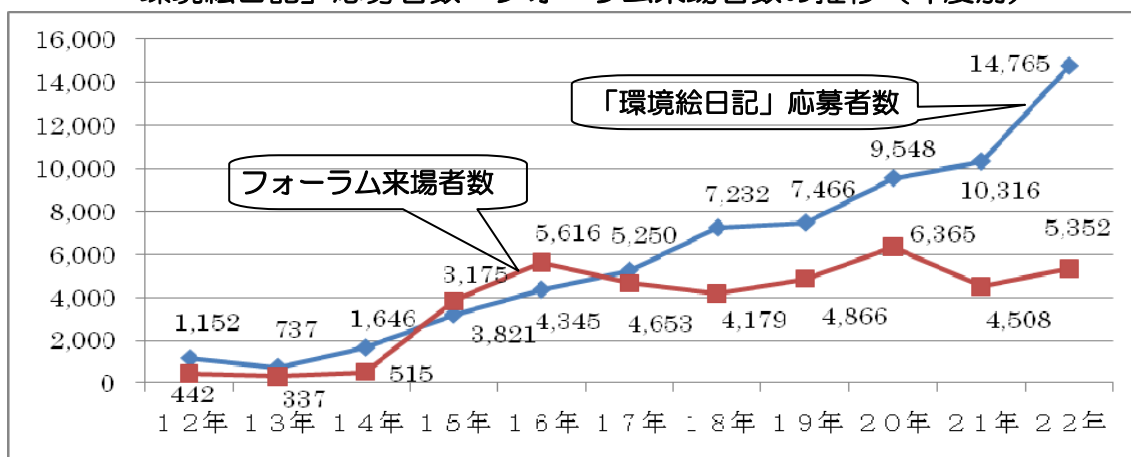
日々現場で働いているリサイクル業者(リサイクルデザイナー)がお話にうかがう「移動リサイクル教室『出前講師』」は、横浜市内の小・中学校・町内会や自治会など、46の団体に伺い、3,476名の方々にお話をしました。小学生向けには「もったいない達人編」として、参加者を「もったいない達人」に認定しました。出前講師の様子は、当組合ホームページに「出前講師日記」として掲載しています。



3-④「環境絵日記」の募集

毎年夏休みに市内の小学生に参加して頂いている「環境絵日記」は11年目を迎えました。応募作品は過去最高の14,765作品が集まりました（昨年度：10,316作品）。今年は、①『わたしが見つけた「もったいない」』、②『わたしのエコなアイテム』、③『地球温暖化防止につながるエコ活動』のテーマで募集しました。ご応募ありがとうございました。

「環境絵日記」応募者数・フォーラム来場者数の推移（年度別）



※15年の来場者数は「市民投票」及び「子ども環境会議・環境絵日記発表会表彰式」の合計
●「環境絵日記」とは・・・

絵（視覚的）と文の組合せで、子どもたちが環境問題に対して考えていることを自由に表現する絵日記です（『環境絵日記』は当組合の登録商標です。平成21年7月10日に登録しました）。

3-⑤「リサイクルデザインフォーラム」の開催

●催事名：リサイクルデザインフォーラム2010

「小さな行動を大きなエコの力に」

●開催日：平成22年10月31日（日）

●開催場所：横浜港 大さん橋ホール

●来場者数：5,352名



- イベント内容：会場内のステージエリア・イベントエリアでは、「見る・聞く・体験する」ことを通して分かりやすく伝え、「一人ひとりの行動が大きなエコの力になる」ことをコンセプトに、『「環境絵日記」作品展』・『ステージエリア』・『イベントエリア』を設け、様々な企画を実施しました。

《ステージエリア》

ステージエリアでは、『「環境絵日記」優秀特別賞 発表会・表彰式』、『車いす交換式』・『リメイクダンスショーケース』の3つを開催しました。

【「環境絵日記」優秀特別賞 発表会・表彰式】

14,765作品という、過去最多の応募を頂いた「環境絵日記」の中から、優秀特別賞22作品を決定、学校賞2校とともに表彰式を行いました。当日は、「リサイクルデザイン賞」527作品を会場内に展示させて頂きました。また、表彰式には、横浜市会議長もプレゼンターとしてご出席頂きました。



【車いす交換式】

金属委員会「学校等アルミ缶もったいないプロジェクト」による車いす交換式を開催し、横浜市立東小学校（横浜市西区）の皆さんが児童運営委員会・環境委員会の取り組みを紹介してくれました。



【リメイクダンスショーケース】

今年初めての企画として、キッズダンスプロデューサー「しづにゃん」さん（CLOVER）のご協力で、古着などをリメイクしたオリジナル衣装を着た子どもたちによる、「ダンスショーケース」を行い、29チーム・総勢150名の子どもたちが出演しました。



《イベントエリア》

今年は、実行委員会の出展する体験型ブース（資源選別職業体験「資源化センターへようこそ」、型抜き体験ブース「カミカタヌック」）、協賛団体様による出展ブース（12団体）、工作体験コーナー、スリーエフブースが出展しました。また、環境絵日記をプリントしたポストカードの配布（応募者のみ）や、iPad・プラズマディスプレイによる電子展覧会のほか、Tシャツ・カレンダー販売も行いました。



3-⑥ 「学校等アルミ缶もったいないプロジェクト」

学校等からのアルミ缶回収事業では、今年度はのべ49回の回収を実施し、14台の車椅子を届けることが出来ました。また、当事業に積極的に参加し、地域への車椅子寄贈を続けている横浜市立希望ヶ丘小学校に対して、感謝状と記念品を贈呈しました。



3-⑦ イベントへの出展など

市内で行われたイベントに出展し、リサイクルについての理解を深めて頂きました。

- 出展内容:「資源とごみの分別体験 ～G30版～」、月刊リサイクルデザイン配布、再生品・りくみちゃんグッズ販売など
- 「りくみちゃん」をデザインした車で町中を走り、出前講師に出かけることで、『もったいない』というメッセージを多くの人に伝えていきたいと思ひます。



4. 回収事業、再生製品開発・販売事業

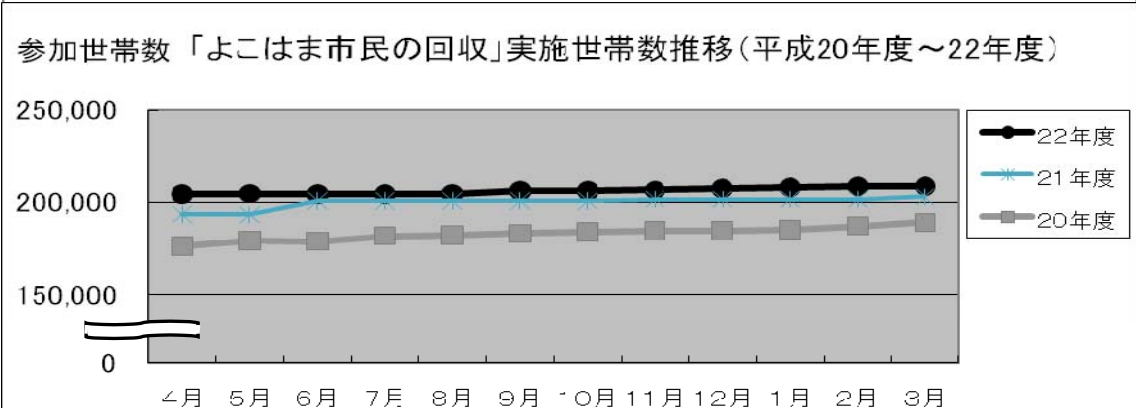
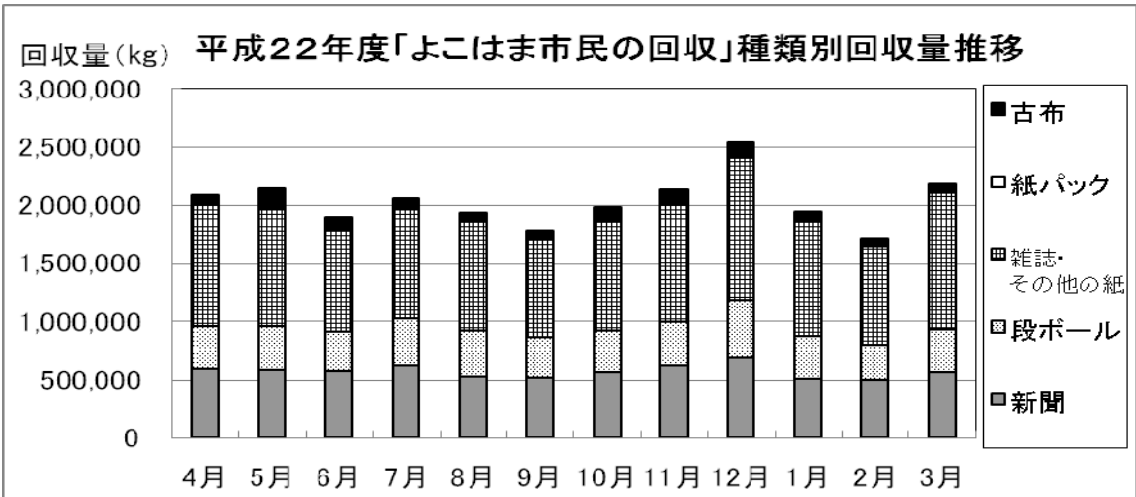
4-①「よこはま市民の回収」の取り組み(毎週定曜日回収方式)

平成15年度からおこなわれている、NPO法人 横浜市集団回収推進部会による「よこはま市民の回収」(旧名称:「紙の日」回収)は、

- ・平成23年3月から始まった地域を含めて、市内205団体を対象に行われています。
- ・横浜市内の約13.2%、208,732世帯が参加しています。

(H23.4.1現在、横浜市総世帯数1,586,986)

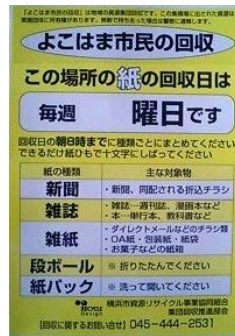
- ・平成22年度の回収量合計は24,407,310kgでした。
- ・平成23年3月は、世帯あたり約10.5kgが回収されました。



「よこはま市民の回収」はこのステッカーと回収車両が目印です。



「よこはま市民の回収」回収車



「よこはま市民の回収」ステッカー

4-②古紙回収事業(資源集団回収・オフィス共同回収)

1) 家庭から出る古紙のリサイクル(資源集団回収)

リサイクルデザインに参加しているリサイクル業者のほとんどが地域の資源集団回収に携わっています。横浜市内の資源集団回収は、1年間(平成21年)で172,470トンの新聞・雑誌・段ボール・紙パックなど家庭から出る古紙がリサイクルされました。

資源集団回収 回収実績(単位:トン)

	古紙回収量
H20年1~12月	175,640
H21年1~12月	172,470

横浜市資源循環局HPより

1年間で集めた紙の量は全部で172,470トンです!
 これは立木(直径14センチ長さ8メートル)に換算するとなんと!?
 3,449,400本分に相当します!!
 (立木1本から50kgのバシツができたとして計算)



取り組み結果例-「よこはま市民の回収」古紙回収量

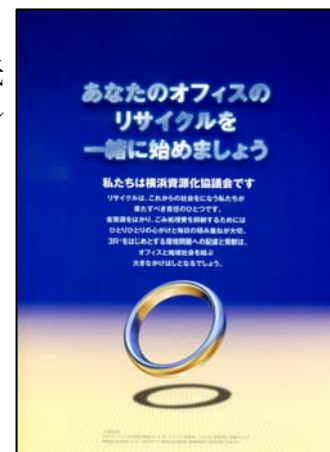
平成22年度の古紙回収量合計は、約2.4万tでした。古紙1t=立木20本」と換算しますと、立木約48万本分の古紙が1年間で回収できたことになります。

日本の平均的な森林は1200本/1haなので、48万本は400haの森林に相当します。400haは、横浜市西区(約704ha)の約半分、横浜スタジアムの約153個分の広さになります。

2) オフィスから出る古紙のリサイクル

リサイクルデザインでは、横浜市内のオフィス古紙のリサイクルを、様々な方法で共同回収しリサイクルをしています。

- 「横浜資源化協議会」の運営および回収
- 県機関のオフィス古紙共同回収
- 工業団地の古紙共同回収 など



4-③再生製品開発・販売事業

リサイクルデザインは横浜市で回収しリサイクルした再生品も販売しています



リくみ回しペ

横浜市内等のオフィスから回収した古紙に、紙パックを30%以上配合したトイレットペーパー



横浜市内で集めた古紙でつくった古紙100%の再生コピー用紙

<p>牛乳パック 100%再利用 紙ひも 「小結くん」</p>	
---	--

<p>牛乳パック 100%再利用 ボックスティッシュ</p>	<p>リくみ回しティッシュ</p>
--	-------------------

5. 資源化センター事業（受託事業）

市内で毎週定曜日回収される缶・びん・ペットボトルの選別施設「資源選別センター」にて行う選別作業を、平成5年4月より継続的に受託しています。

●平成22年度受託実績

緑資源選別センター・戸塚資源選別センター・鶴見資源化センター

6. リサイクルポート山ノ内

リサイクルデザインでは「リサイクルポート山ノ内」を運営し、国際的なリサイクルの「環」を創造し、アジア全体での環境にやさしい取り組みをめざしています。

平成17年4月からは「資源の行方と循環型社会についての講習会」+施設見学の受け入れを開始しました。平成22年度は51団体・1,394名の方が来場されました。

講習内容:ごみ・資源物の現状、G30版分別体験、リサイクルの国際化、3Rなど



7. その他

7-①「ISO14001」認証取得

リサイクルデザインでは、「循環型都市よこはま」の実現を目指し、さまざまな環境保全・創造の取り組みを行ってきました。これを持続的に行うために、環境マネジメントシステムを取り入れ、継続して改善するように努めてきました。これらの取り組みが、平成19年3月29日にISO14001の認証取得として認められ、平成22年度も継続的に取り組んできました。



7-②「横浜型地域貢献企業」(最上位)認定

豊かな市民生活の実現を目標に、地域貢献の視点で事業活動に取り組んでいる企業や事業体を認定するこの制度は、現在までに123社(団体)が(財)横浜企業経営支援財団より認定を受けています。認定には一定の基準(システム評価と地域性評価)を達成する必要があります。リサイクルデザインではCSRマネジメントシステム(ミッションの明確化、社会的責任の明確化、CSR方針の策定・周知・公表、経営戦略の構築)に基づくビジョンを策定しました。また、CSR内容評価10項目(コンプライアンス、雇用、環境、品質、地元活用・志向、地域社会貢献、財務・業績、労働安全衛生、消費者・顧客対応、情報セキュリティ)の内7項目以上をクリアし、平成19年度に最上位認定を受け、平成22年度も継続的に取り組んできました。



7-③その他の事業

1) 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)義援金

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の被災者に対して、日本赤十字社・日本財団CANPANプロジェクト・神奈川県中小企業団体中央会を通して義援金を贈りました。

2) 提供表示シール式救急キット「F+A」の配布

車載用の応急処置用の救急キット「F+A」を全組合員へ配布しました。資源回収で横浜市内を走る車両に搭載し、事故などの際に、救急医薬品の提供により応急処置が可能となりました。

表示シール



3) 平成21年度中小企業庁補正予算事業 新卒者就職応援プロジェクト

平成22年3月末現在、就職未内定新卒者を対象とした就職応援事業に平成22年7月からコーディネーター企業として4名の実習生を受け入れました。

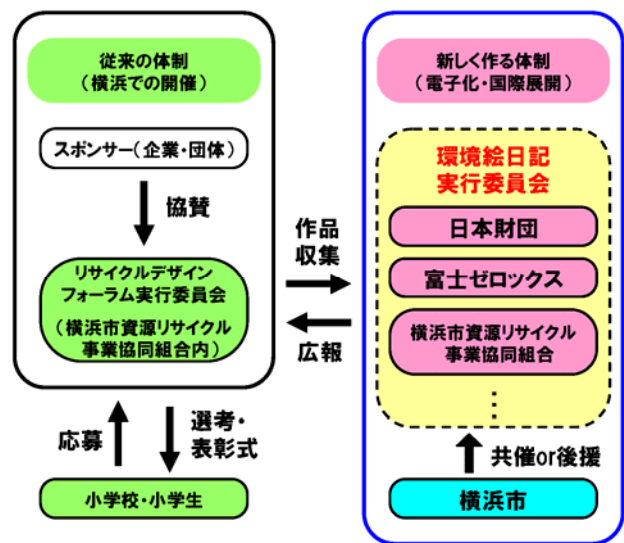
4) 平成22年度 外部委員会等の役員及び委員就任

以下の団体・委員会等に参加しています。

- ・グリーン購入ネットワーク理事 (普及委員)
- ・横浜グリーン購入ネットワーク幹事 (事務局長)
- ・横浜市資源循環局：「ヨコハマR（リデュース）委員会」 (委員)
- ・環境省：平成22年度環境保全型製品購入促進事業
グリーン購入拡大・深化のための検討会 (委員)
- ・環境絵日記実行委員会 (実行委員長及び事務局長)

●「環境絵日記実行委員会」の設立

「環境絵日記」事業の拡大のため、電子化・国際展開を行う事を目的に、当組合と富士ゼロックス(株)様・日本財団CANPANプロジェクト様で設立しました。2010年は国際交流として、APEC横浜開催を契機として横浜周辺のインターナショナルスクール等に作品を応募して頂いたほか、APEC横浜のCO2をカーボン・オフセットしました。応募作品の電子データ化により、WEB公開に加えて多数の会場で環境絵日記作品展が開催可能となりました。



これからもリサイクルデザインを
応援よろしくお願いします！



横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒221-0054 横浜市神奈川区山内町13番地
Tel 045-444-2531 Fax 045-444-2532
E-mail mail@recycledesign.or.jp
HP <http://www.recycledesign.or.jp/>